

詩 と 写真 と 雲

お 父 ち や ん

東條 和人・くるみ・都築 桂つ良







# いちにんまえ

子供の頃 祖父の家はゴエモン風呂  
斧で薪を割り  
沢山くべて  
じっと火を見つめる

いつまで経っても湯が湧かない  
祖父に尋ねる

「どんなに火を強くしたって湯は湧かない  
薪は少しあれば良い

置火になる様な太い木を最初に  
割った薪を立掛け  
その中に木端を置く  
一番手前にはすぐ火が付くように  
皮を置け

火の先端が底に当たるように

そしたら直ぐに沸く

早く火が扱えるようになれ」



# 神 様 か ら 預 か る

新たな命を宿した  
いくつも名前を考える

ある日 神様が囁いた

この名前をつけなさい  
自立した良い子に育つ

私達夫婦のもとに生まれる事を望み  
今 誕生した。

私が経験してきた事を教えよう

預かっている事を忘れない  
この子が離れる日まで

いつか壁にぶつかった時

自分が生まれて来た目的と  
乗り越える事を理解した時  
この親を選んだ答えが分かるだろう



## 金色の腕時計

私が子供だった頃、父親に腕時計が欲しいとねだった事があった。

父親は自分の持っていた金色の腕時計を私にくれた。

その時私が欲しかったのはもっと別のもの・・・  
新しい腕時計を買って欲しかった。

私は違うと思いながら玄関まで出て行き、  
その腕時計を廊下の淵にたたきつけた。

ガラスの部分にひびが入った。

泣いていたかはもう思い出せない。

今でも消えない記憶・・・

その時の罪悪感より、今ではその時の父親の悲しさが心から離れる事が無い。

心の引き出しから今、出しておかないと駄目な気がした。

覚えてますか？



# 椅子

デパートの最上階で食べたお子様ランチ

日の丸の旗が立っていた

屋上には小さな動物が売られ

遊園地も有った

今は日の丸も遊園地も無くなった・・・  
家族みんなでデパートに行く事も・・・

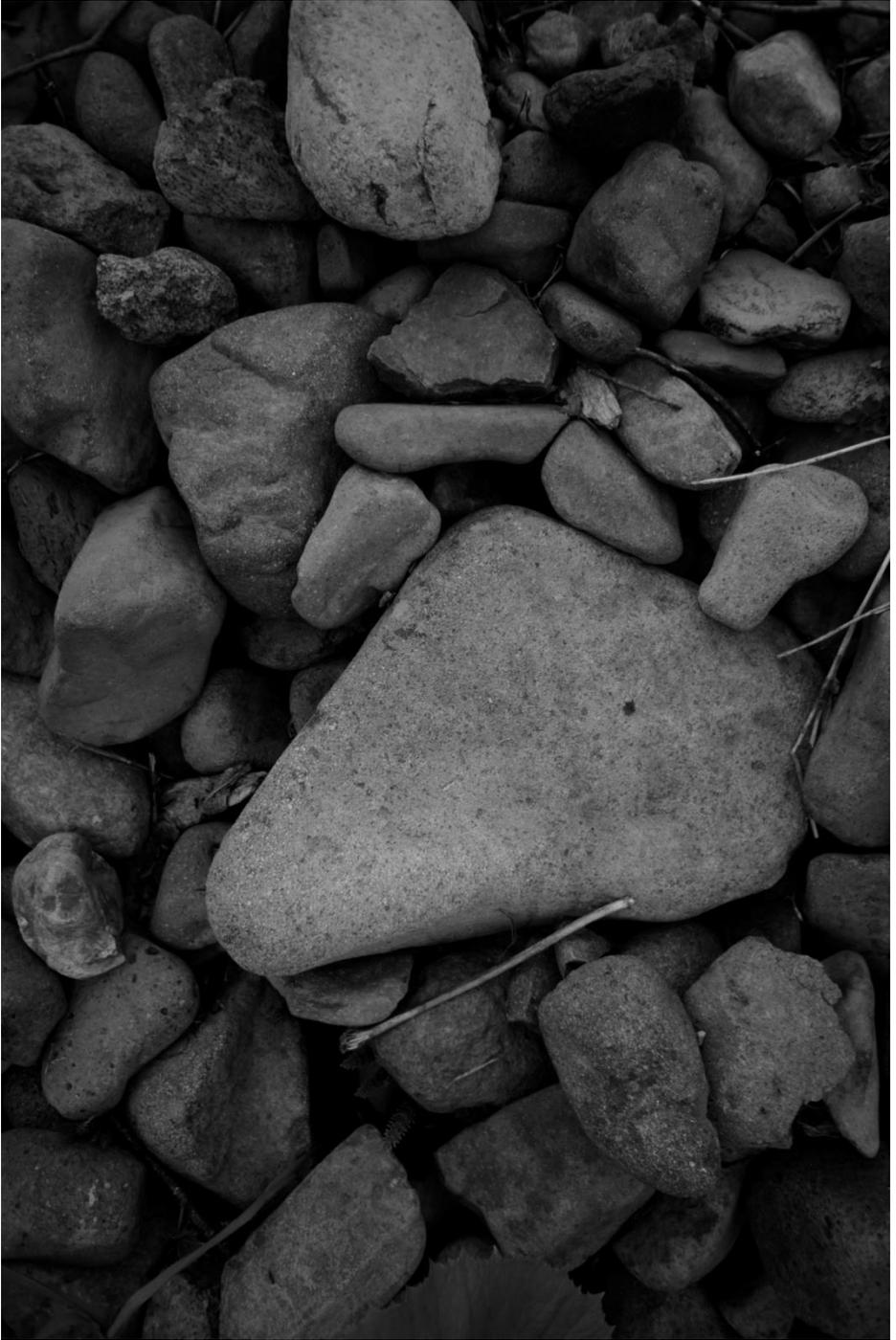
その時の写真も残っていない

でも

心の中に焼き付いている  
あの頃が







# ちよつと～ 入 れ て よ～

ちよつとそんなに押さないでよ！

お前が押してるんだろ！

狭い場所だから  
譲り合いましょう

デカイ図体して何ふざけた事言ってる！

デカイ図体って・・・  
好きでなった訳で無いんだ・・・

そうよ大きさなんて関係ないわ

その通りじゃ  
色も 形も 大きさも  
皆 一つの場所に居るのじゃ  
譲り合って仲良くしようではないか

そうですね その通りです

ちよつと～入れてよ～  
あんた 邪魔！  
そこのデカイの！



## ハグ

やさしく囁いて

そっと抱きしめて

あなたの甘い香りが好き

私の鼓動が聞こえる？

ずっとこのままいて欲しい。。。

あなたを抱きしめると

生きてるって実感する

優しいぬくもりを感じる

いつまでもこのまま・・・

離したくない

あなたの居る限り



# 漏れちゃった

お母ちゃんまた漏れちゃった・・・  
ちゃんとお便所行ったのに・・・  
また漏れちゃった

ちゃんとお便所でしてるのに  
漏らしちゃうんだ  
いつも同じなんだ～

ちゃんとしてるのに・・・

あんたはいつも いつも  
同じ夢ばかり見て  
まったく・・・

お父さん何とか言ってやって！

ゴメン母さんわしもじゃ。。

・・・。



# ク リ ス マ ス

ごめんな

今年はサンタさん来ないかもしれない

家のビニールハウス

雪で潰れてしまったんだ

ごめんな



## かごめ・かごめ

「ここはどんな感じですか？」

駅前が賑やかですぐそばに温泉も有りますよ

「この駅前はどんな感じですか」

駅前が民家が有ります。

「この駅はどんな感じですか」

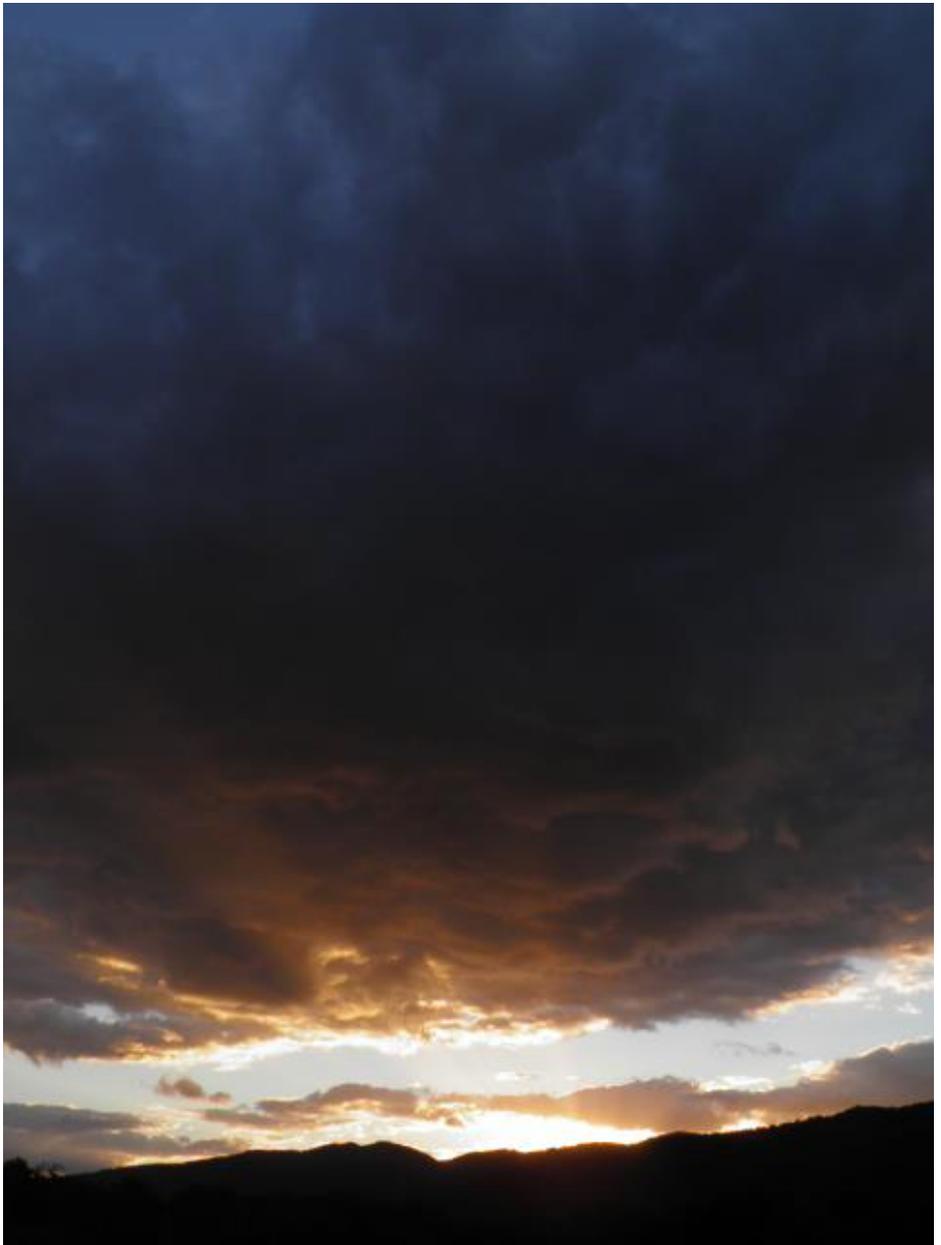
商店が数件ありますけど

「ここはどうですか」

何も無い処です。

「そこまで1枚下さい・・・」

その先に行くのはよしなさいね。



## 旅 立 ち

自分だけの道がある

自分しか行けない処

そこまで歩みなさい

その手を離して

この私から。。。

そして振り向かず

歩みなさい

あなたの道

そして自分自身の道



# 納屋

新しい

耕運機だぞ

すごいだろ

きれいに磨いてやらねえと

明日から

頼むぜ







# 雪 止 め

俺たちに任せておけ

これより先は

絶対

行かせねえから

心配するな

任せておけ



# 大 雪 の 朝

かあちゃん 今朝はえらく寒いなあ  
ちょっとそっちの布団に入れさせてくれや

かあちゃん。。。

あったけえなあ。。。

ちょっとだけいいだろ。

大丈夫。。。

誰も来やしねえさ。。。

エッチ!



# リズム

その目を開けて見るがいい

自然と共に生きる

真実の姿だ

お前だけに見せてやる

本当のリズムを

さあ おいで

この手を握りなさい

一つになりなさい



眠 い か も . . .

ボク ネムイかも . . .

おっばい 飲んだし

お兄ちゃんたちと . . .

いっばい . . .

あそんだから . . .

ボク . . .

ネムイかも。。。



# 迷 い

旅に出ようか

本を一冊持っても

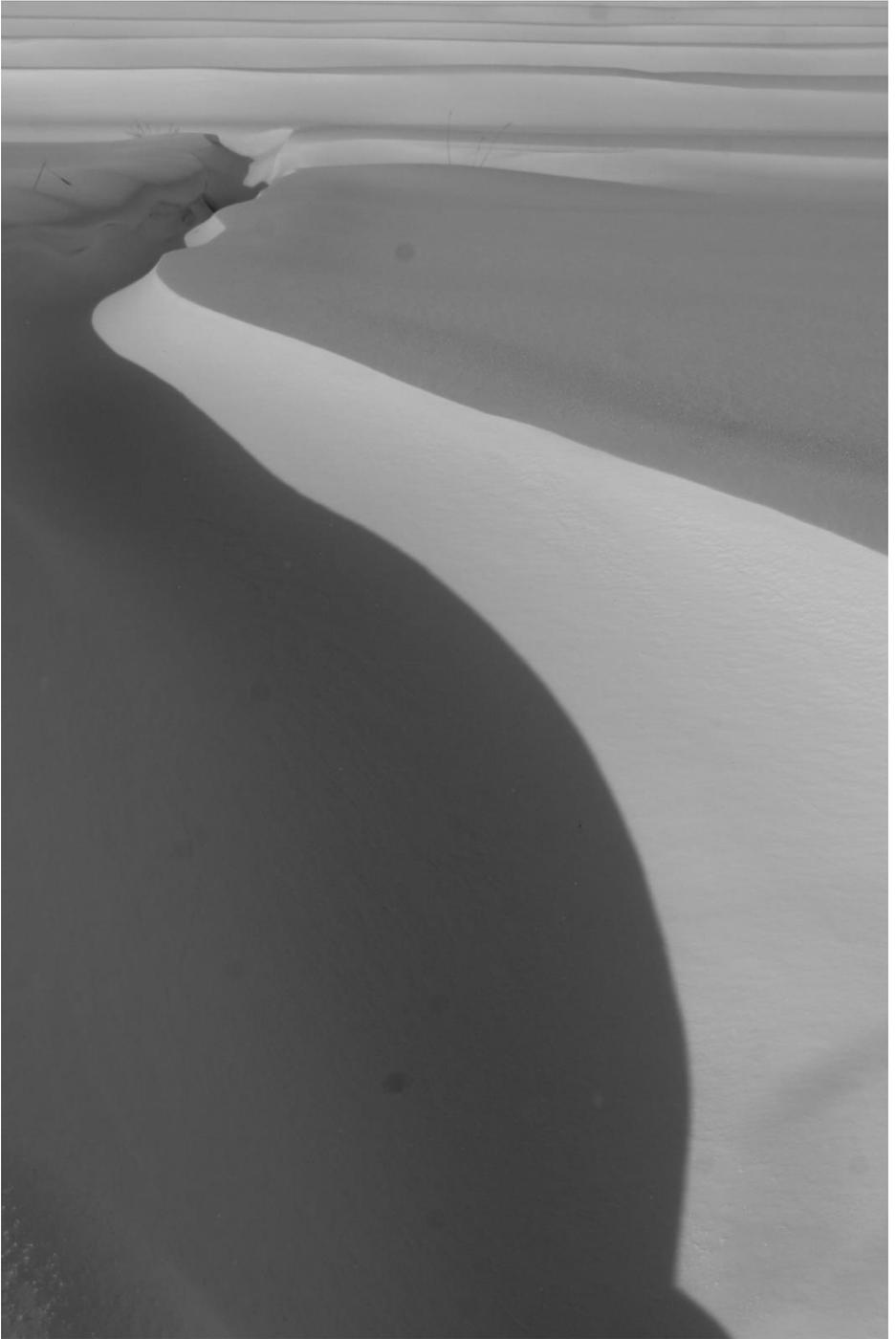
読むことは無い

濃い霧の中

どこに行こうか

自分の行先は

自分で決めるのか



# 雪

私は全てを覆い尽くすだろう

山も 川も 木も

次の始まりの為

眠りにつかせよう

ちょうどいい時だ

さあ 眠りなさい

春になったら起してあげる。



# 微笑んでごらん

辛い・・・

寂しい・・・

鏡に微笑んでごらん。

頬笑み返してくれた？

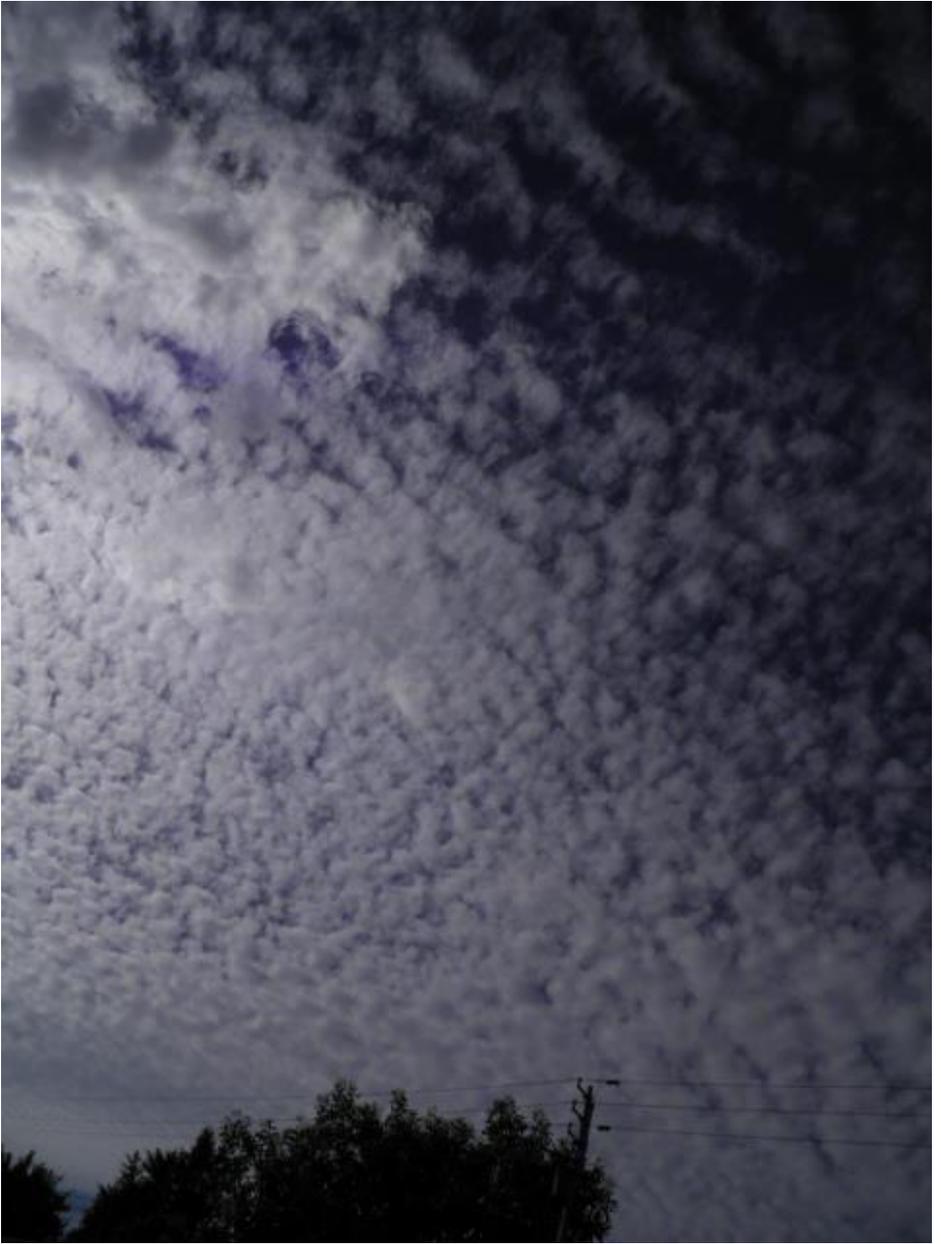
笑ってくれた？

これからきっと良くなるよ。

さあ 笑ってごらん

だいじょうぶだよ。。。







# ランプの聖

詩：くるみ

俺はランプだ

俺に近ずくと

火傷するぜ

頭は

もう焦げてるぜ

(ワイルドだろ～)



## また会おう

ここには居ないよ。

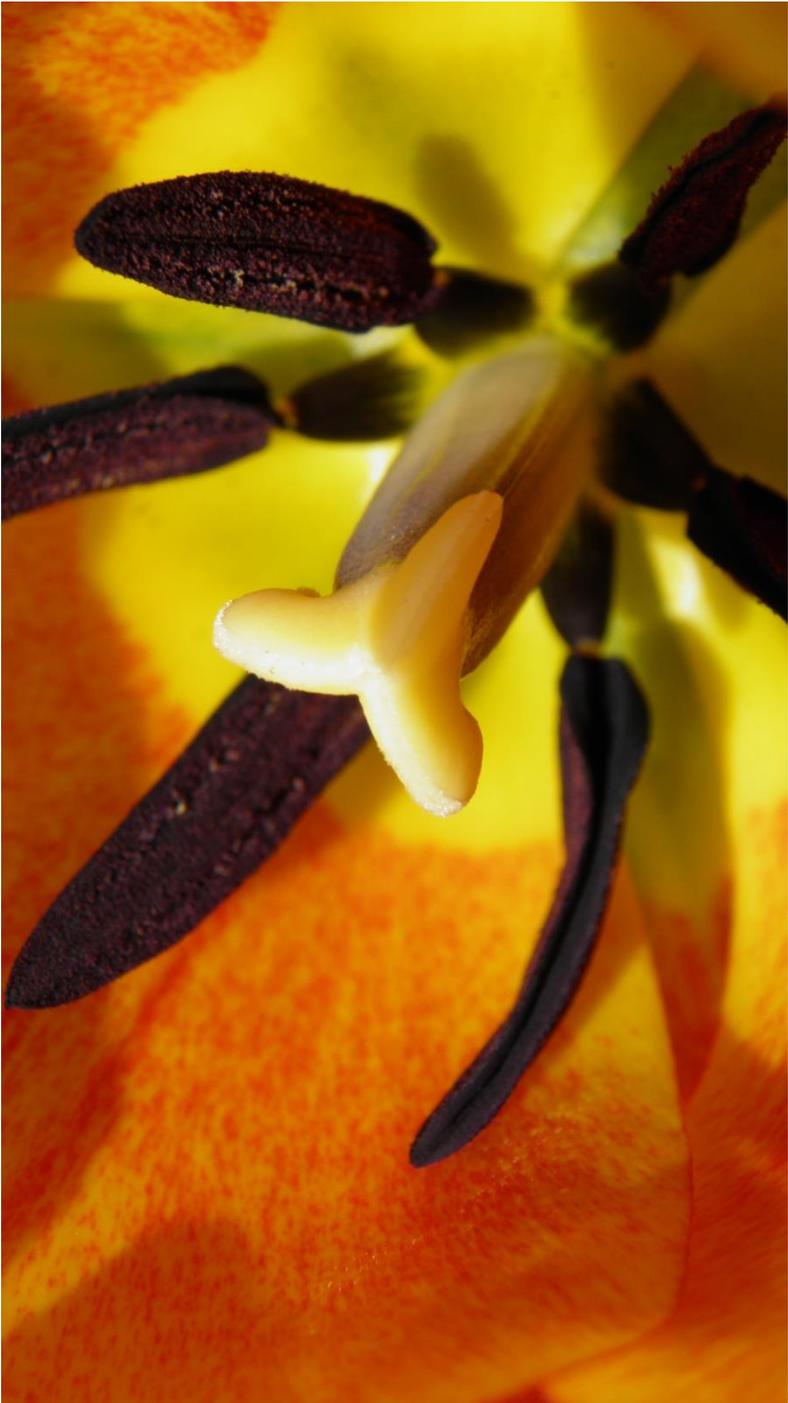
年老いて倒れた大木と一緒にだ

今回の修業を終え自由だ。

ここに眠るは単なる脱け殻。

また縁があったら会おう。

いつか君もくる場所だ。



# 嬢

詩：くるみ

あなたたち！

へイ、お嬢

もっと花粉をよこしなさい！

へイ、お嬢

男でしょ！

へイ、お嬢



ヤダー

ヤダー

はみ出してるワァ

ちゃんと

お手入れしてるのに・・・

恥ずかしいワァ



# い つ も の こ と だ

詩：くるみ

父ちゃん

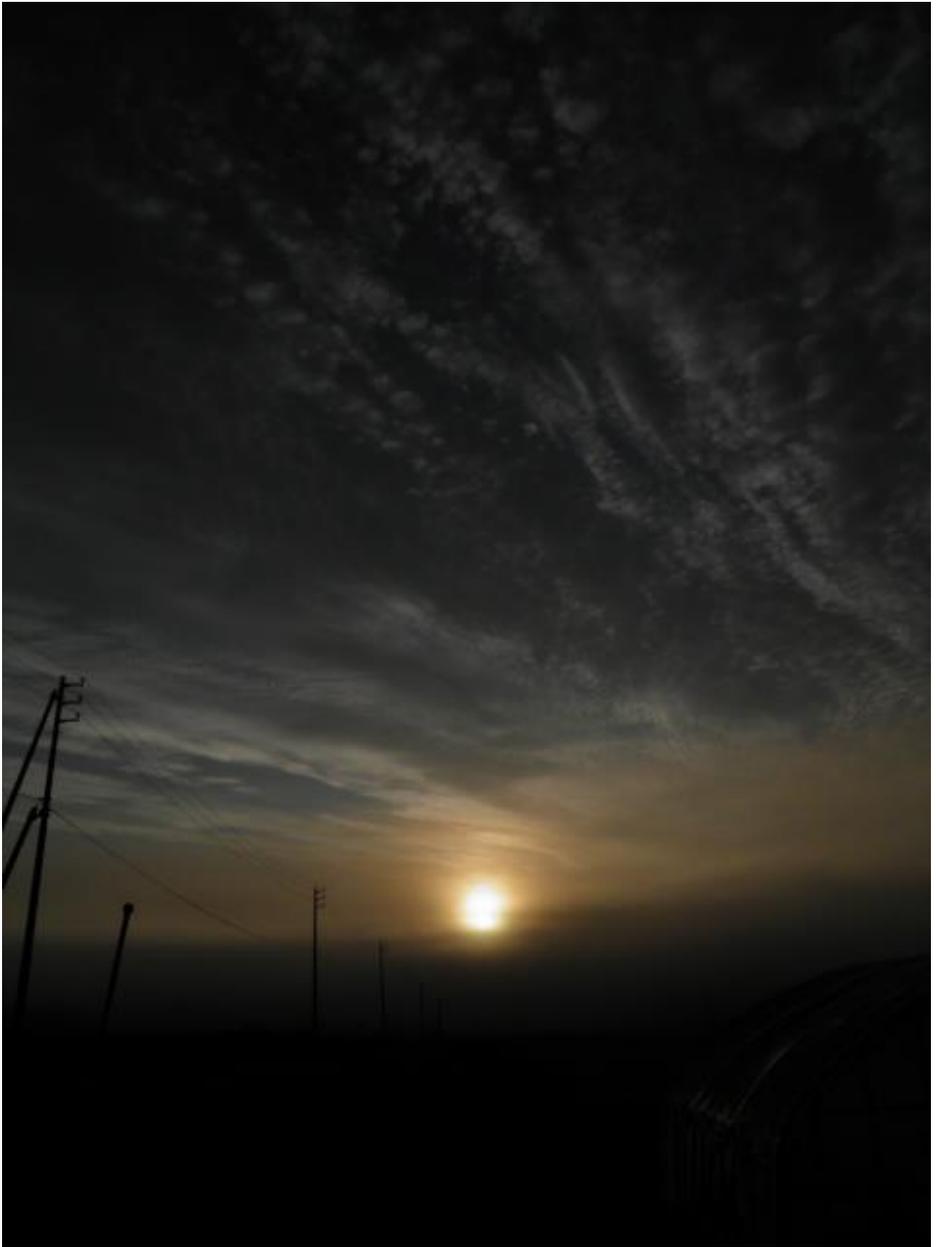
さぶいよ

いつものことだよ

父ちゃん

重いよ

いつものことだよ



# 時の始まり

時の始まりが来た

目を覚ませ

皆が一つになった

生まれ変わった

さあ動き出せ

いくぞ



# ダンス

オオカミの遠吠え

虫

太鼓

大地を踏む足の音

揺らめく炎

大地の鼓動と一つになる

わたしはダンスを踊る

月と一体になるために

# タイムスリップ

ある日の休み時間



トシちゃんあそこ見て。  
ほら、飛行機が飛んでるよ

赤とんぼだよ。  
絶対そうだよ～

すごいな～  
いつか僕も乗りたいな～



ケンボー知ってるか？  
アメリカから大リーグの

チームが来て  
日本チームと戦  
って18戦18  
勝だってさ。  
でも沢村栄治だ  
け1点に抑えた  
んだって。  
ベーブルースも  
3振にしたんだ  
ぜ。



ヒロコちゃん東京の渋谷駅でハチ公の銅像が飾られたってラジオで言ってたよ。近くの人達にエサもらっていたんだって。ハチ公もビスコ食べてたのかな～

あとね～お父ちゃんが遠浅に雪印のチーズ工場が出来たって言ってた。牛乳から出来ていてお豆腐を固くした感じなんだって。美味しいらしいよ。

トモエちゃんチーズ食べてみたいね。牛さんも頑張らないとね。私、おばあちゃんの作る豆腐が好き。お父ちゃんの買ってきてくれるビスコも好き。だって美味しいんだもの。



ねえイギリスのネス湖に大昔の  
恐竜が生きているんですって。  
ネッシーって言ってたわ。  
写真も有るんですって。

家の近くにも居たらどうしよう  
見つかったらきっと食べられて  
しまうわね。

なんだか怖いわ～



マイちゃん大丈夫  
そんな時はこの俺がボッコで  
叩いて追っ払ってやるからさ。



エイジくんはマイちゃんのこと大好きだもんね～



そろそろ石炭くべておかないと先生に怒られちゃうぞ。

マイおまえも何とか言え。

エイジくんスキ。。。



撮影協力・共和町かかし古里館

西暦 1926年 昭和元年

: 北海道・十勝岳が噴火。死者 146 人。

西暦 1927年 昭和2年

: 九州沿岸に大津波、死者 373 人。

西暦 1929年 昭和4年

: 【北海道駒ヶ岳噴火】 噴煙の高さが 13km。火砕流が 10km

西暦 1930年 昭和5年

: 静岡県伊豆地方で大地震。死者・行方不明 331 人、全壊 2200 戸。

西暦 1933年 昭和8年

: 【三陸沖地震】 三陸地方でM8.1の大地震。死者 3008 人、行方不明 1184 人、家屋流出 4034 戸、倒壊 1817 戸。

西暦 1937年 昭和12年

: 南京陥落を祝って全国で提灯行列が行われた。

西暦 1938年 昭和13年

: 関東地方、風速 31 メートルの台風。死者 99 人

西暦 1940年 昭和15年

: 外国名の排斥でたばこ改名、「ゴールデンバット」は「金鷄」、「チェリー」は「桜」に

西暦 1941年 昭和16年

: 新聞・ラジオの気象報道が禁止になった

西暦 1942年 昭和17年

: 金属回収令により寺院の梵鐘・仏具などの強制供出命令。

: 西日本に大型台風。死者 891 人、全壊 3 万 3283 戸。

: 北海道駒ヶ岳が中噴火。火口原を横断して延長約 1.6km の割れ目

西暦 1943年 昭和18年

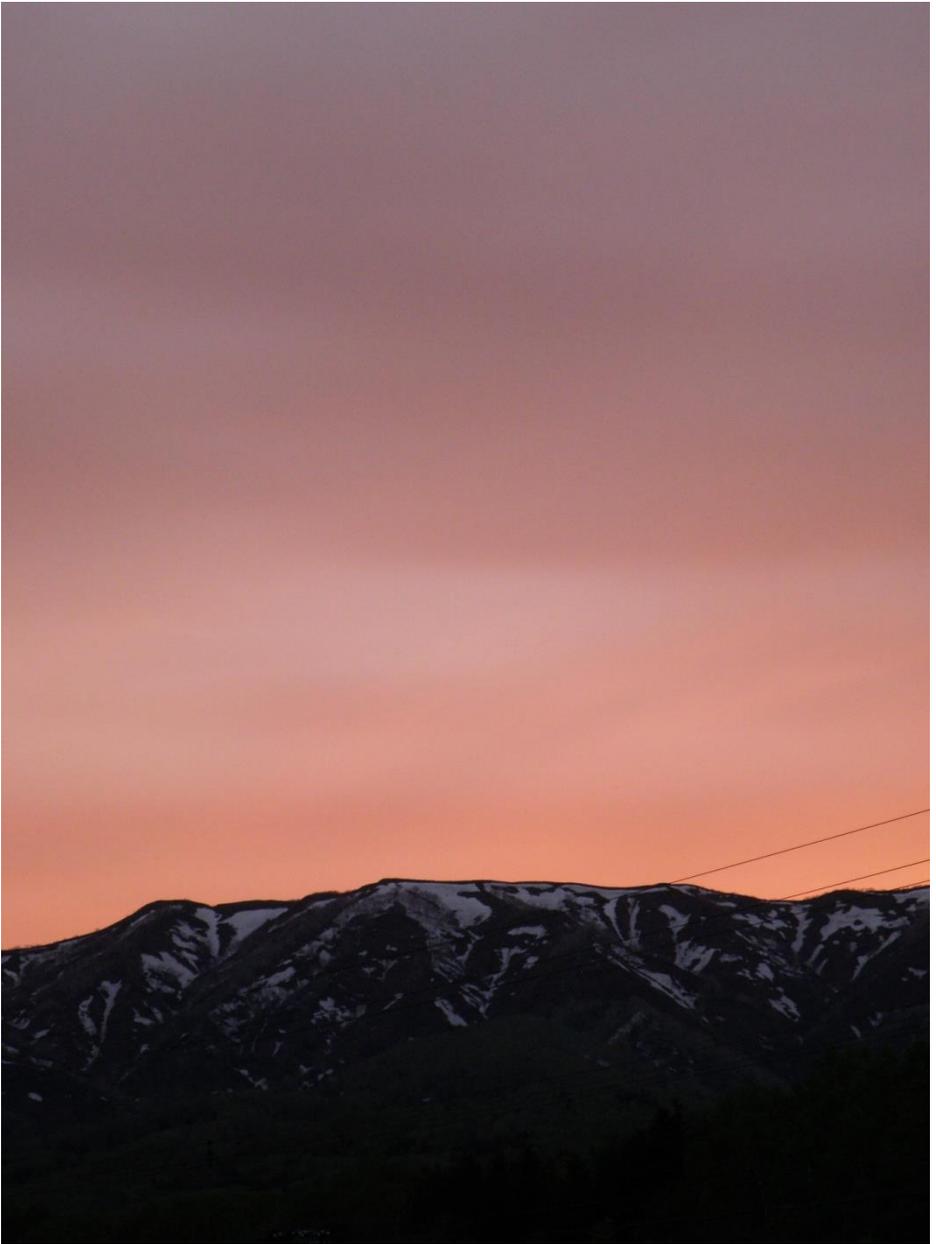
: 東京上野動物園で 25 頭猛獣と毒蛇を毒殺。

: 鳥取で大地震。死者 1083 人、全壊 7400 戸。

西暦 1944年 昭和19年

: B29、初めて北九州空襲。







お じ や ま し ま す

はじめまして

わたし きのこです。

少ししかここに居られないけど

ヨロシクネ。



# 願 懸 け

お天道様

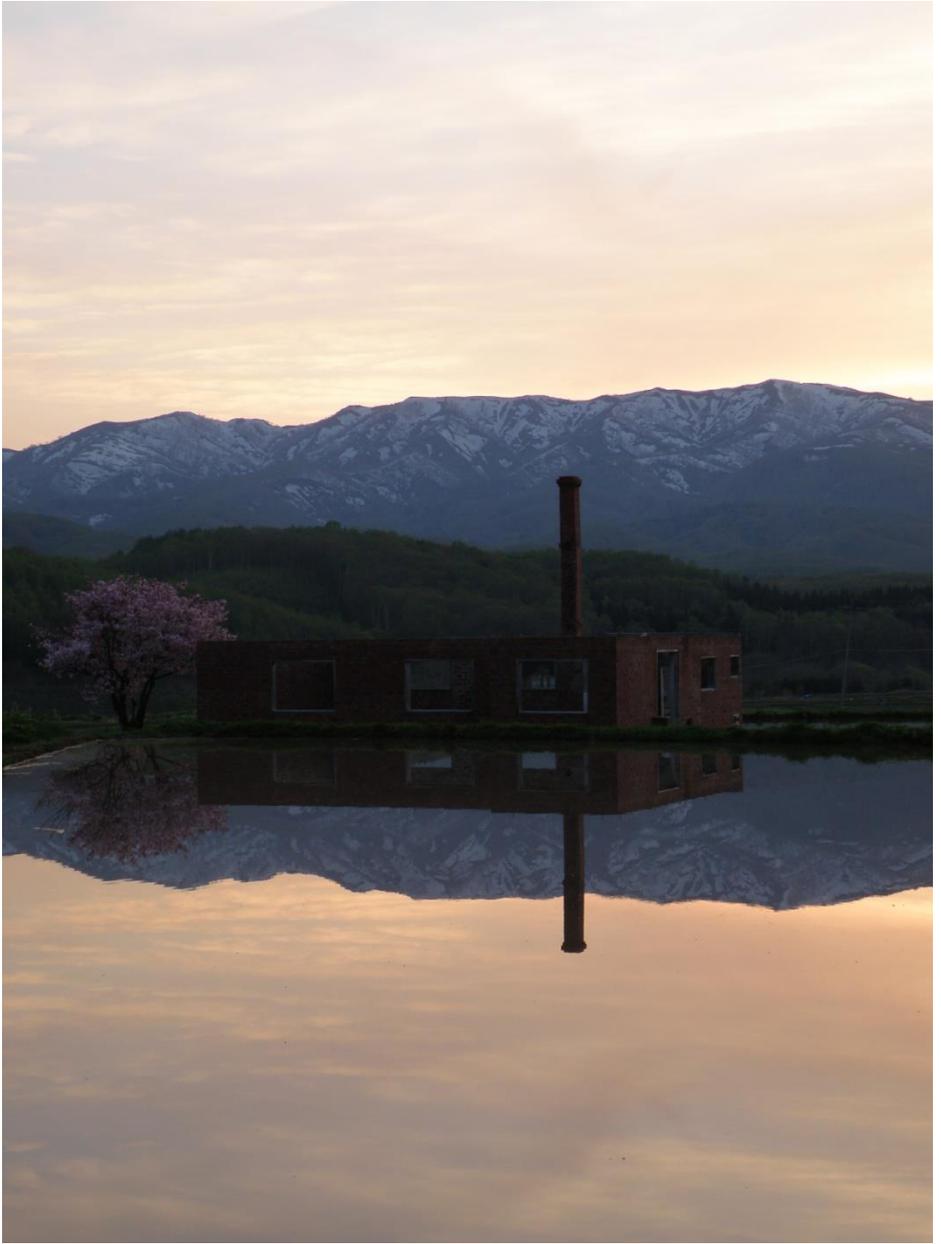
もう少し機嫌を良くしてくだされ

風の神様

優しく吹いてくだされ

水の神様

暴れないでくだされ



## おもいで

おとうちゃん ご飯出来たよー

おとうちゃん お風呂沸いたよー

おとうちゃん おはよー

おとうちゃん 行ってきまーす

おとうちゃん ありがとう

おとうさん

今まで育ててくれてありがとうございました。

仕事ばかりしすぎて身体壊さないでね。



# 押し花

やっとみつけたよ

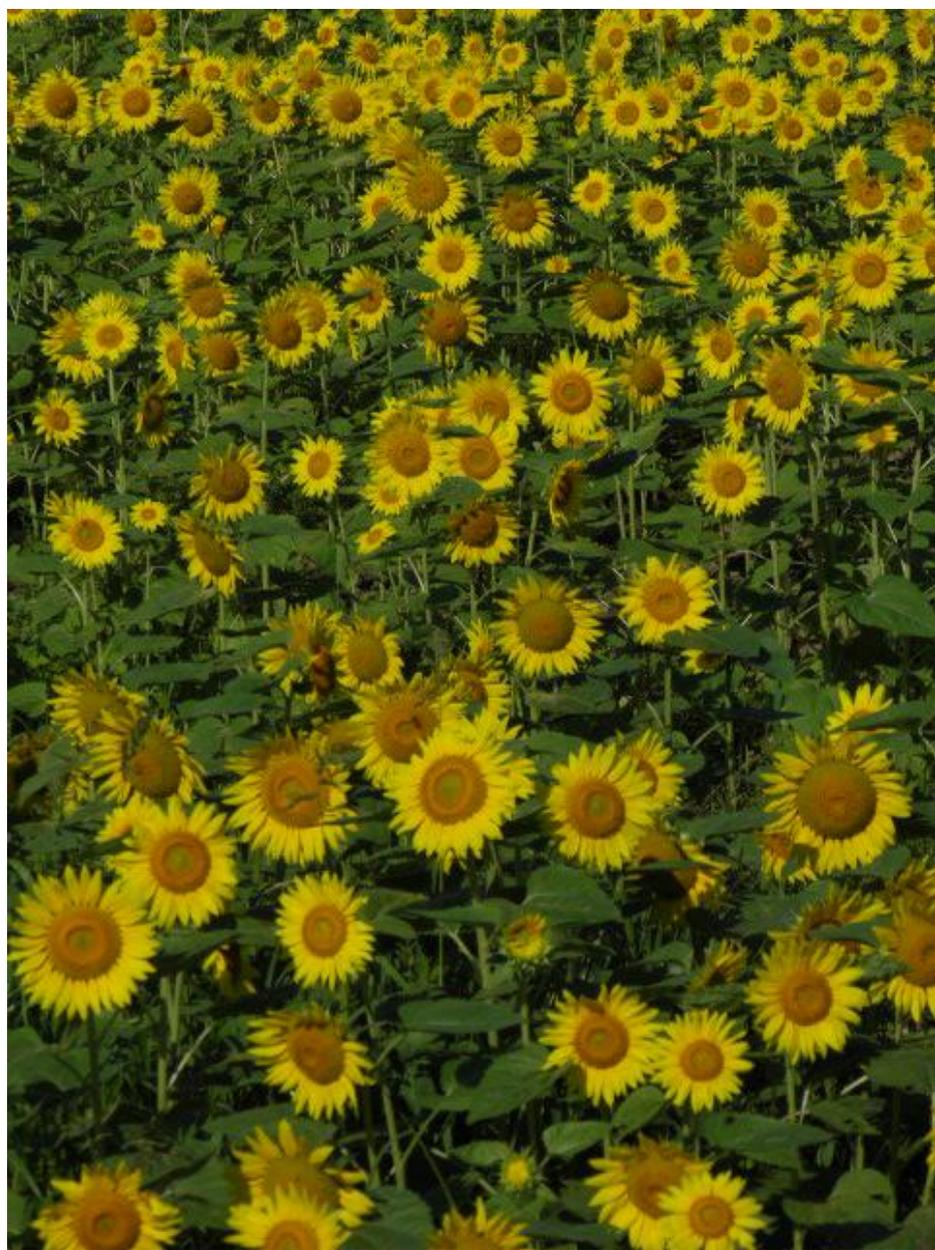
君との約束だったね。

そっと髪をなで 抱きしめる

細い肩に涙がこぼれる。

これは僕が作っておくからね

君の大好きな本に挟んでおくから。



い つ も 一 緒

お母ちゃんただいまー

チヒロちゃんと川に行って来るね

うん ハヤトもつれて行く

いってきまーす。

はあーい わかったー。



お れ っ て

おれが何処にいるか分かるって

そうか さすがだな

じゃあ 良い事を教えてやるよ

あと30分で雨が降るぞ







わ た し っ て . . .

私 怒っているのよ～

わかってる？

でも 可愛って。。

そ～お～

かわいい？

ウフッ。

でも 怒っているのよ～

この辺で ちょっと一休み。一杯飲みましょうか。  
素敵な音楽でも聞いて、夕御飯の支度でもしましょう。  
今夜は和風ドライカレーでもどうですか？



ひき肉 370g。普段牛を食べないので牛臭かったから豚挽肉が良いかな？ひじき1袋。大豆水煮缶。玉ねぎ中1個。カレー粉（横浜舶来亭辛口。ドライには一番）黒砂糖。オイスターソース。塩。コショウ。



玉ねぎ、ひき肉を炒め塩、コショウ、オイスターソース



ひじき、大豆、黒砂糖（大1）を入れ良く炒める



カレー粉（大5）を入れ良く炒める



冷めてからおにぎりに入れてもおいしいよ



今回はドライカレーとサラダで頂きます。





# か くれ ん ぼ

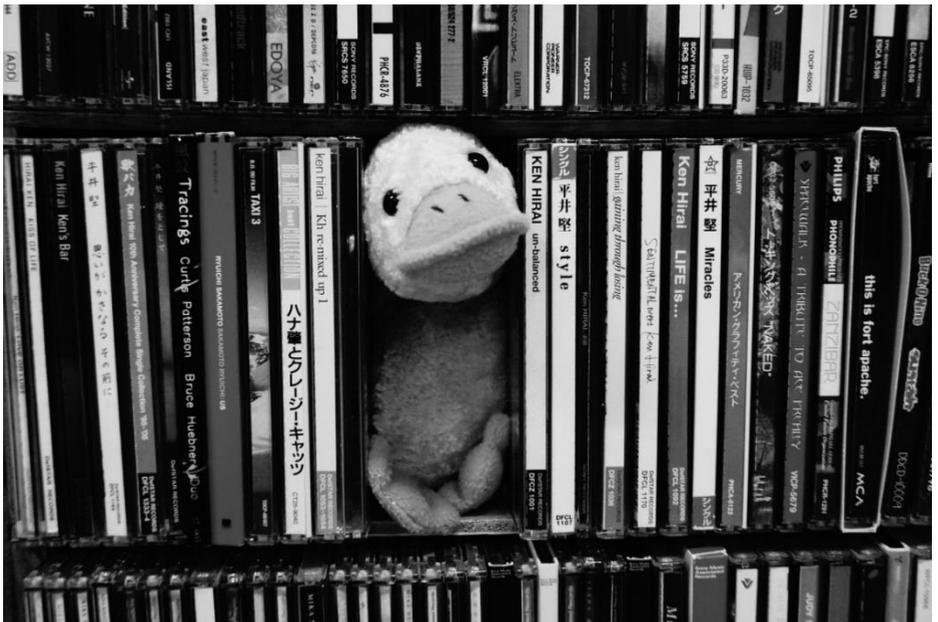
みんな～ちゃんと隠れたか～い

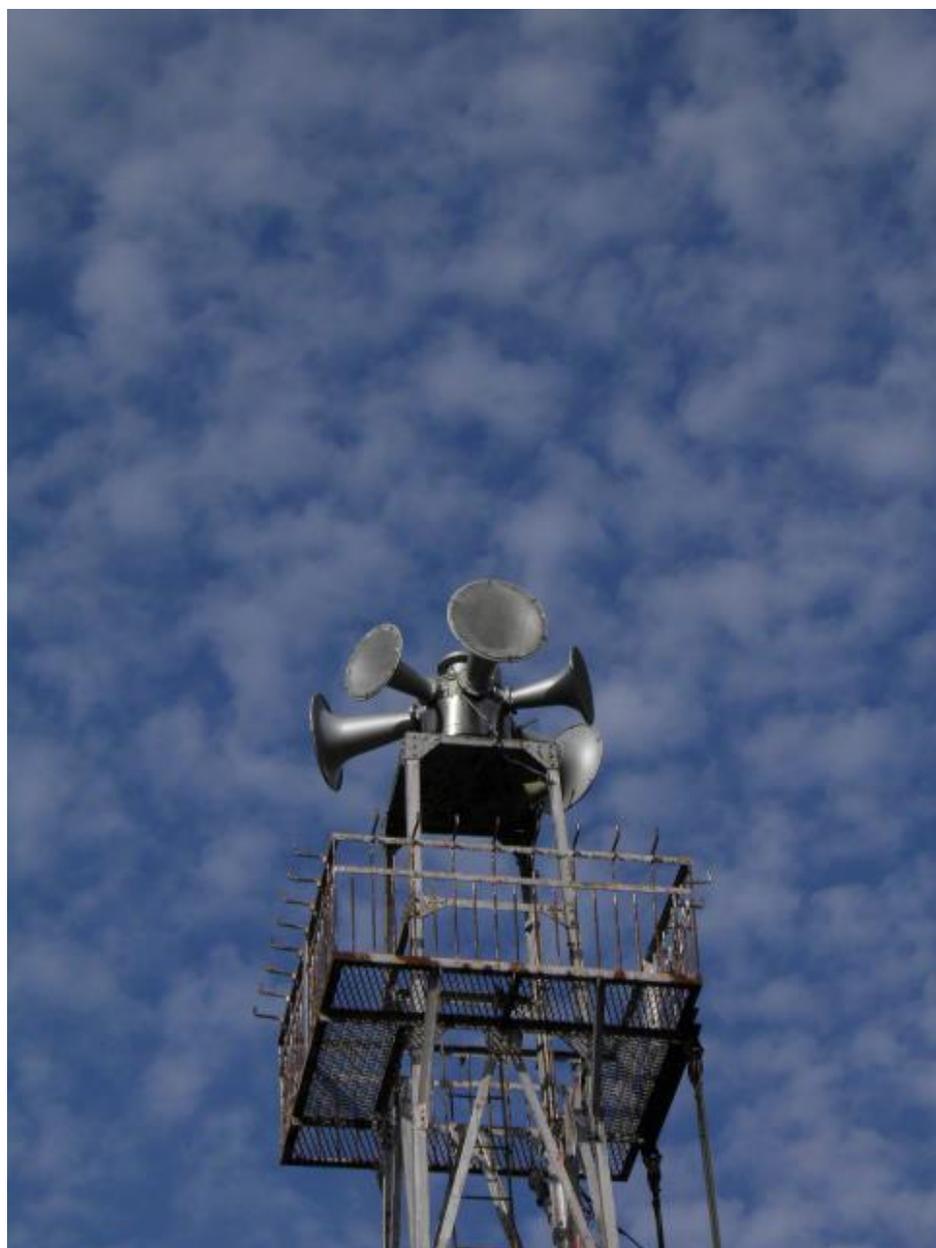
うん。ダイジョーブ

頭がちょっときついな～

かくれたよー

でも ちょっと狭いかな～





# 大 空 に 向 か っ て

イシヤ～キ～モ～

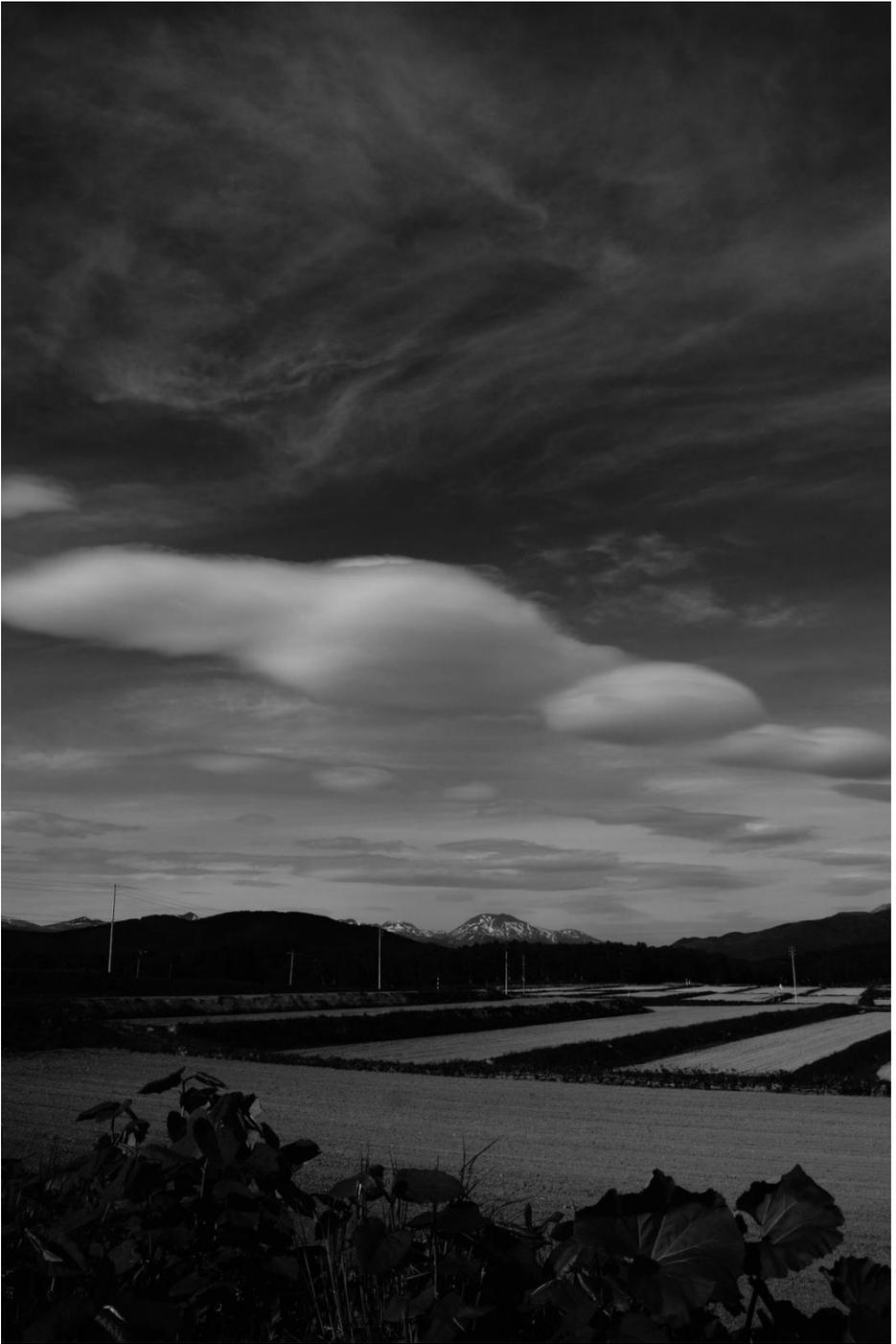
オイモ～

オイモはいらんかね～

ふっくらやわらか

甘くておいしいよ～

早く来ないと売れちゃうよ～



# 忘れてはいけない

生きているのは人間だけでない

大地も

花も

雲も

空気も

動物も

虫や魚も

皆 生命がある

この地球の子供たちだ



# 距 離

これが野生の距離だよ

覚えておきな

仲良くなったら

もう少し近づかしてあげる

今日はここまでだよ



## 足 跡

何処に行こうか

終わりなのか

始まりなのか

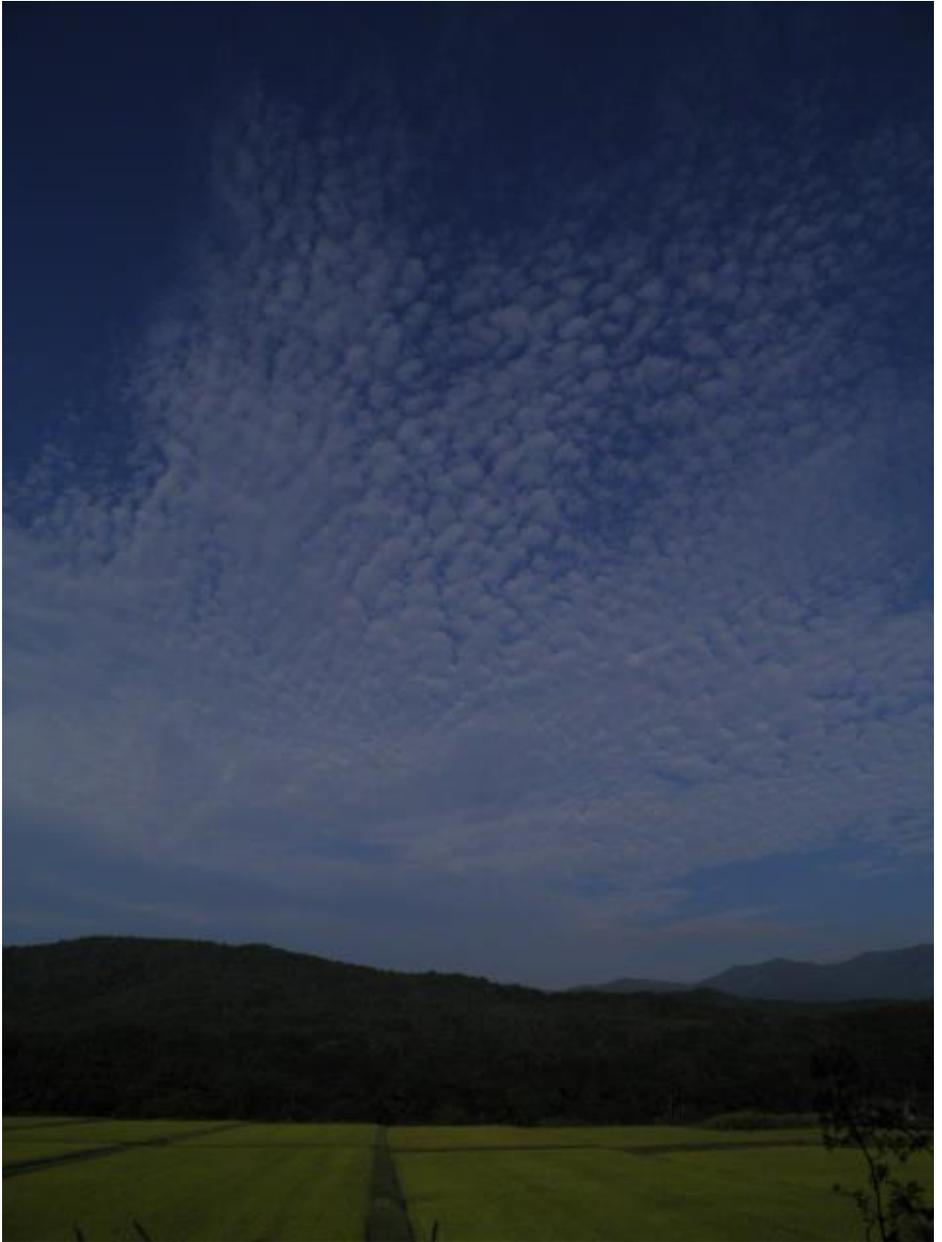
その記録を残す者は無い

ただ歩いていくだけ

さて

何処に着くかな







権 現 様

アンタ 権現様に願 懸けたね

財布だろ

知ってるよ。。。

ちゃんと約束守るんだよ。

明日の朝ここに置いておくからね

約束忘れるでないよ



い っ た い 何 が

カチッ・カチッ・カチッ

コツ・コツ・コツ

\*!+\$&%#

エッ～

ドサッ

コツ・コツ・コツ



版画：東條和人（第28回パリ国際サロン ドローイング・コンクール部門、入選作）

# ア ダ ム と イ ブ

詩：都築 桂つ良

太陽の下で踊ろう  
私の左足を  
あなたの心に踏み入れて  
満月の下で踊ろう  
あなたの右足を  
私の心に踏み入れて

まざりあって笑おう  
誰が誰ともわからないくらいに  
どのくらい悲しいとか  
どのくらい楽しいとか  
色々な気持ちを持ち寄って  
かきまぜてしまえば  
なにもなくなる

溶けあって生きよう  
私は私でなくてもかまわない  
まざりあい、溶けあって  
ひとつになって生きよう







# 水から生まれし者

光と水から生まれたの

余りにも柔らかいから

貝が必要。

それに・・・

ちょっと

恥ずかしい・・・



## 羽 化

旅立つ準備が出来た

いくぞ

動き出せ

新しい靴を履いて

すぐそこだけど

すごく遠い処

準備が出来たら

旅立て

いくぞ



## みやげ

明日のお昼頃そっちに着くから

うん。 お昼一緒に食べるよ

夕方までしか居られないけど・・・

うん。 近くに来たら電話する。

じゃあ。



# 楽 し み 方

なに？つまらないって？

本気で遊んだ事ある？

料理や掃除や仕事も

始める前からつまらないって思っているだろ！

それじゃいつまで経っても

面白くなんて・・・。

頭を空にして飛び込め

本気で楽しんでみな。

本気って言うのは真剣に言う事

違って見えてくれば

楽しんでる証拠。

本気でやってみな。



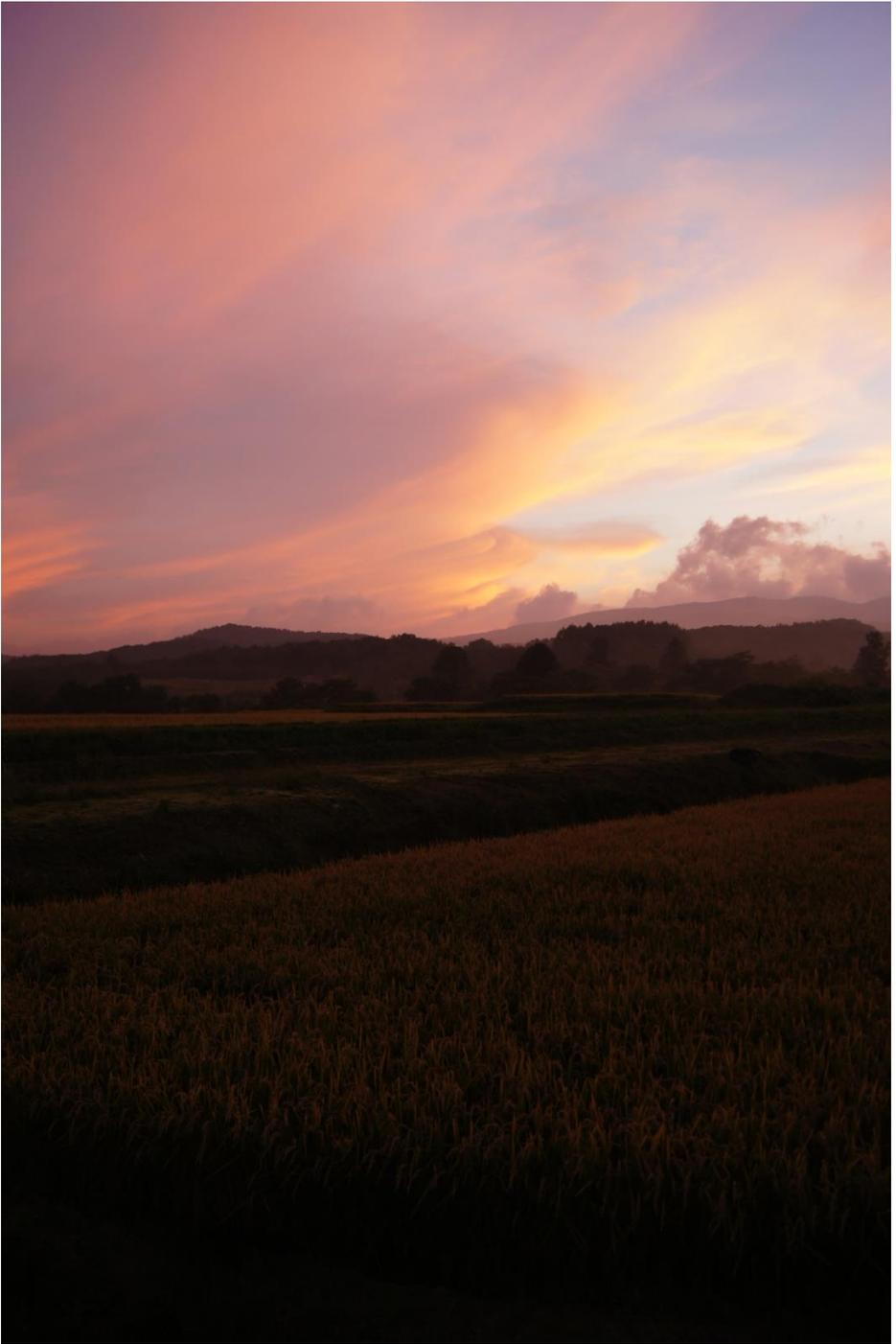
# 覚 悟

いいかい！

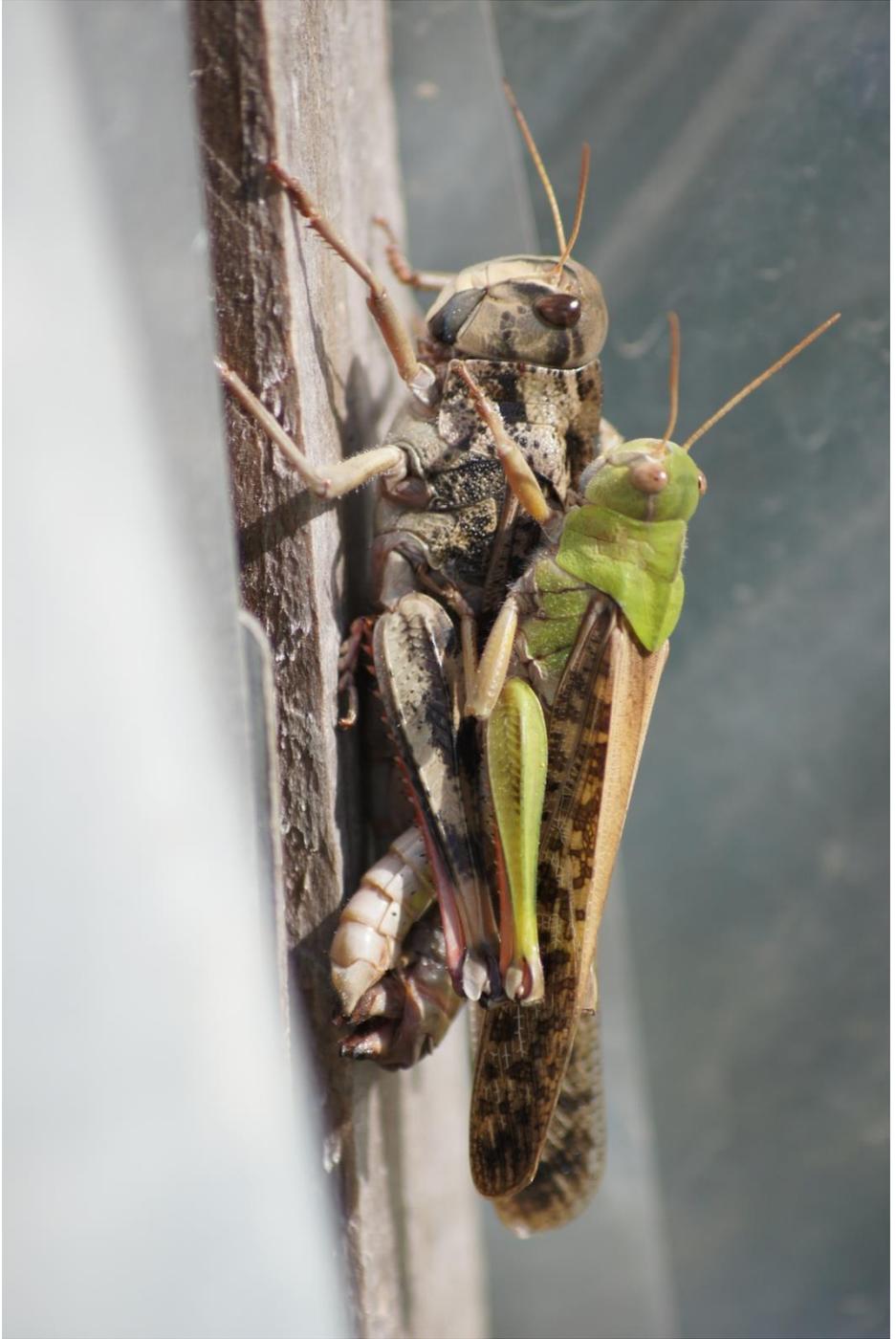
ここまできたら逃げる事はしないよ

あんたも覚悟してかかっておいで

少しでも動いたら・・・







# ちよつとなに

ちよつといきなり上に乗らないでよ

なにをするの

いきなり・・・そんな

だめだって・・・

まって・・・

だめ・・・



# わたし産みます

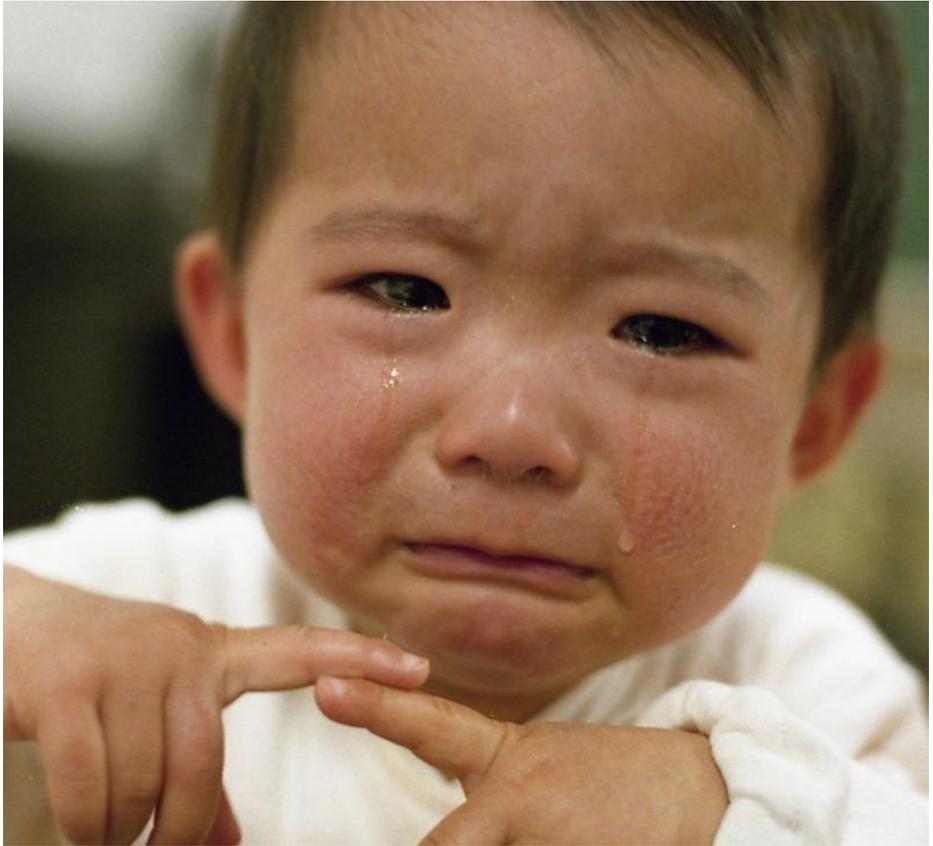
産みます。

だって わたしを選んできたんだもの

だから ぜったい産む。

みんな・・・

生き残りなさいね。。。。



# ち か ら

今日も頑張ったよ

明日もがんばるさ・・

健康には気を付けてる。

帰ったらいっぱい遊んであげるからね。

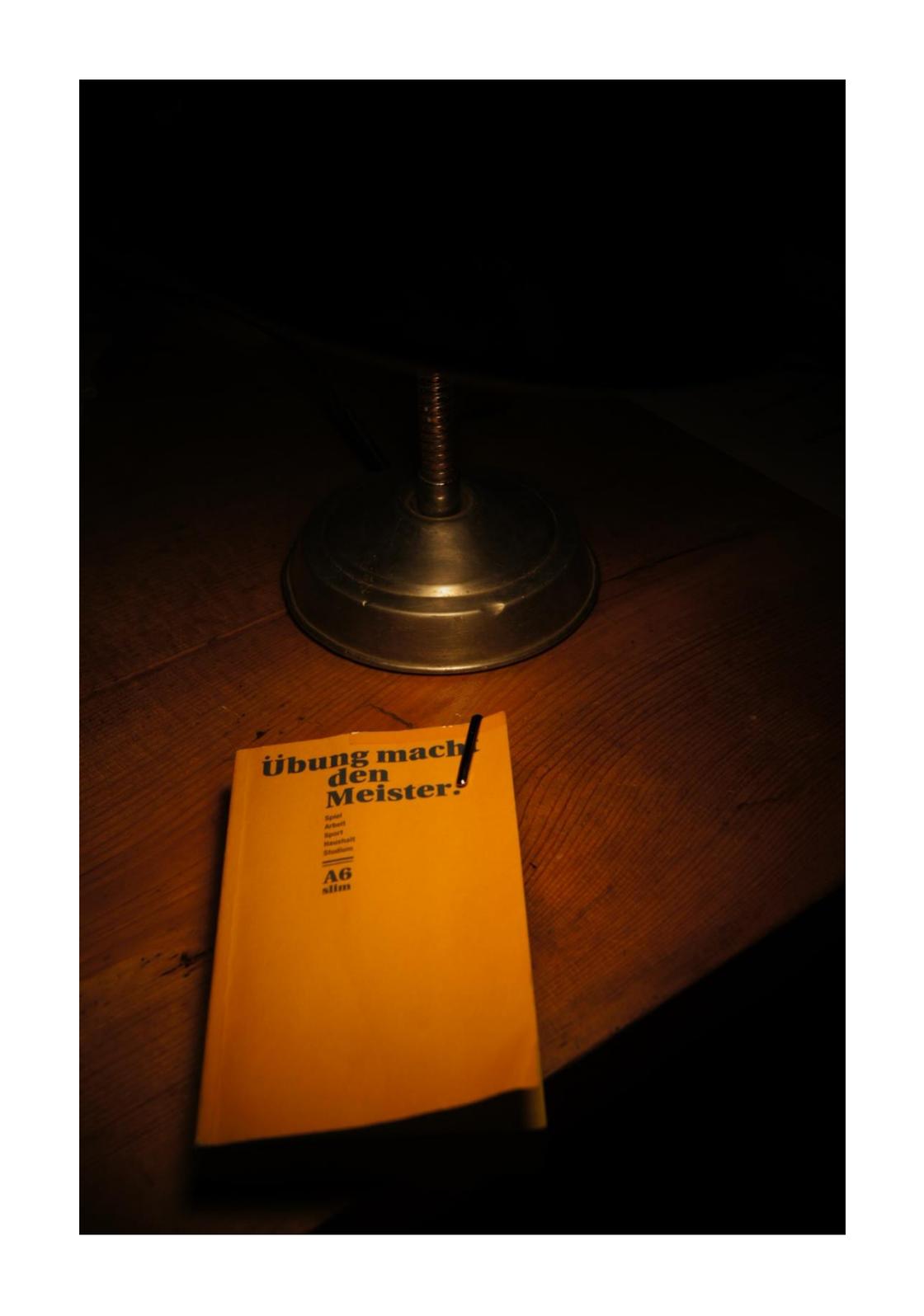
大丈夫 がんばるよ。。。

そんなに 泣くな

・

・

・

A photograph of a yellow notebook on a wooden desk. In the background, a brass lamp base is visible. The notebook has the title 'Übung macht den Meister!' and lists 'Sport', 'Arbeit', 'Musik', and 'Studium' as categories. It is labeled 'A6 slim' and has a black pen resting on it.

**Übung macht  
den  
Meister!**

Sport  
Arbeit  
Musik  
Studium

**A6**  
slim

## ノート

何でも書く

辛かった事

嫌な人の事

悪口もイッパイ書きなぐって。。。。

行の最後に

自分の為に本当は良い事だったんだと書く。

無理やりポジティブな内容に書き換える。

脳を騙しちゃう

脳は意外と単純

同じ事が起きても平気



# 野 に 咲 く 百 合

詩：都築 桂つ良

野の百合が、  
垂れた頭を持ち上げて  
音もなく花開く

力をください  
太陽を見つめても焦げない黒目と  
しなやかな言葉を話す唇を  
与えても与えても数かぎりない  
幾千枚もの真白な胸を

力をください  
雨のように  
日差しのように  
ごく日常のここのように



# 日 々 の 感 謝

詩：都築 桂つ良

悲しい時は悲しんで

こらえずに泣く

倒れた時は頑張らず

ただ生きること喜ぶ

疲れたなら

土の上で眠って良い夢を見る

それがわかったのは

あなたがいつもやさしく

難しいことを言わずに

いてくれたから



# 微かな潮騒

詩：都築 桂つ良

歳月は波のリズムを奏でながら

過ぎていく

あんなに心近かったあの人も

今は一人で歩いている

それほど寂しいわけじゃない

ただ、海の遠くを見つめていると

潮騒と思い出の香りが

入り交じって

置き去りにされた

渡り鳥のように

しかたなく

涙がでてしまう



# 冥王星

詩：都築 桂つ良

茜色の夕日を追いかけて  
群青色の帳が下りる  
今宵、三日月。濡れて輝く  
尖ったところを指でなぞれば  
青い夜の群れに襲われて  
たちまち体は震え出す  
ああ、純粹という言葉の痛さよ  
胸のまんなかを  
真綿を刺すように突き抜けていく  
背中を丸めてうずくまる  
背後に突き出た針先は  
冥王星を指している



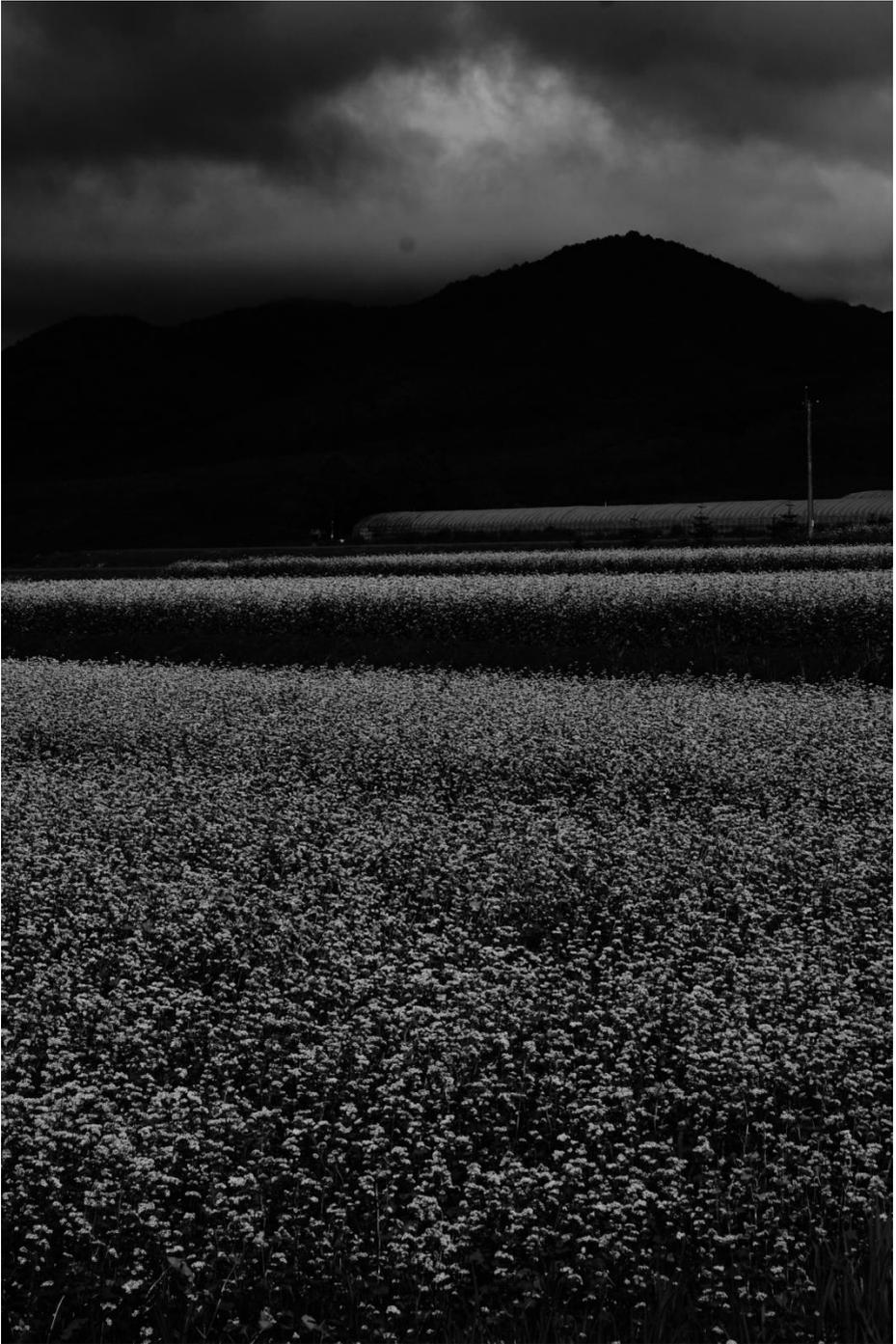
# 太陽がさんさんさん

詩：都築 桂つ良

太陽がさんさんさんと手拍子してる  
隠しごとなんかしてもムダ  
ぜんぶ見えてる  
白いため息ついてたことも  
木陰でかくれてうつむいてたことも

手を腕を胸を広げて  
泣き虫を虫干し  
心の粒子を空に放つ

太陽がさんさんさんと手拍子してる  
どんな服も着なくていい  
誰かにならなくていい  
丸裸でいればいい  
太陽がさんさんさん







## し あ わ せ

羽を広げて風とおしゃべりしていると  
虹の始まりに白髪の老人が立って 手招きしていた。

「この中に有る物は皆、役目を終えた者ばかり。  
しかし未だ新たな挑戦をしたいと思っている者ばかりだ。  
そこでお主に頼みがある。この者たちに新たな生を与えて欲しい」

私は1枚の服を選んだ。

「これで何か作ってみます。」

「頼みましたぞ」

早速家に帰り作業に取り掛かった。

数個の財布が出来あがった。

道の駅、ふるさとの丘に置いてもらう事にした。

しばらくすると老人が氷の下で泳いでいる私に話しかけた。

「この者たちとは約束しておく。大切に使ってくれた人達が幸せ  
に成れるよう協力する事を条件に命を与えると」

老人は袋を差し出した。

私は新しい服を取り出した。



タイトル：詩と写真と雲 お父ちゃん

発行：2014年11月1日 初版

著者：東條 和人

写真：東條 和人

詩：東條 和人・くるみ・都築 桂つ良

発行者：東條 和人

北海道磯谷郡蘭越町字田下83

0136-55-3421

出版：らんこし作家デビュー・プロジェクト